

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●幸英明騎手が史上最速でJRA通算1万9000回騎乗を達成

7月28日(土)の2回小倉1日・第9レースとして行われた国東特別でティープラッサムに騎乗した幸英明騎手(栗東・フリー)は、この騎乗で史上6人目、現役6人目となるJRA通算1万9000回騎乗を達成しました。デビューから24年4か月24日、42歳6か月17日での達成は、武豊騎手の記録(デビューから28年0か月29日、46歳0か月15日)を超えるJRA史上最速・最年少記録となります。

●C.ルメール騎手がJRA年間100勝を達成

7月29日(日)の1回札幌2日・第6レースではリープリングスターが1着となり、同馬に騎乗したクリストフ・ルメール騎手(栗東・フリー)は、4年連続4回目、本年一番乗りとなるJRA年間100勝を達成しました。

●福永祐一騎手のJRA通算勝利数が史上第6位となる

7月29日(日)の2回新潟2日・第6レースではビックピクチャーが1着となり、同馬に騎乗した福永祐一騎手(栗東・フリー)はJRA通算勝利数を2112勝としました。これは河内洋元騎手の2111勝を抜き、JRA史上第6位の記録となります。

●セレクトセール2018開催

7月9日(月)と10日(火)の2日間、北海道苫小牧市のノーザンホースパークにおいて「セレクトセール2018」(主催・一般社団法人日本競走馬協会)が開催されました。初日の1歳馬セッションは上場233頭(牡136頭・牝97頭)、落札211頭(牡124頭・牝87頭/落札率90.6%)で、落札総額96億7450万円、1頭平均価格約4585万円は過去最高を記録。最高額はキングスローズの2017(牡/父ディーブインパクト/母はニュージーランド3歳牝馬チャンピオン/兄はエプソムC勝ち馬サトノアーサー)で2億5000万円でした。2日目の当歳馬セッションは上場231頭(牡156頭・牝75頭)、落札205頭(牡136頭・牝69頭/落札率88.7%)、落札総額は82億5750万円、1頭平均価格は約4028万円、最高額はリアアントニアの2018(牡/父ディーブインパクト/母はカナダ2歳牝馬チャンピオン)で2億9000万円。2日間の落札総額179億3200万円はセール史上最高となりました(金額はすべて税別)。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●伏兵イグナシオドーロが門別で重賞初制覇【各地の主要2歳重賞】

ブリーダーズゴールドジュニアC(7月31日、門別、1700m)は、2番手から3コーナー過ぎに先頭に立った8番人気のイグナシオドーロ(牡、父ヴィットリオドーロ)が、1番人気の栄冠賞馬イッキトウセンを半馬身抑え、栄冠賞9着からの巻き返しを見せました。

●ハヤテスプリントはアヴァレソー(浦和)【各地の主要3歳重賞】

ハヤテスプリント(7月22日、盛岡、1200m)は、好位から3、4コーナー中間で先頭を奪った2番人気の浦和からの遠征馬アヴァレソー(牡、父プリサイスエンド)が、ダモンデ(北海道)の追撃をハナ差凌ぎました。クイーンC(6月28日、笠松、1600m、牝馬)は、4～5番手を進んだ2番人気の兵庫からの遠征馬フェセノラン(父バトルプラン)が、逃げた単勝1.5倍で断然人気のウォーターループを4コーナー手前で捉えて5馬身引き離し圧勝。王冠賞(7月26日、門別、1800m)は、2番手から3コーナー手前で抜け出した2番人気のクロスウィンド(牝、父ヴァーミアン)がクビ差で押し切り、2歳時のブロッサムC以来の重賞制覇を果たしています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●米三冠馬ジャスティファイが無敗のまま引退

今年2月18日のデビューから6連勝で6月9日のG1ベルモントS(ダート1200m)に優勝し、5月5日のG1ケンタッキーダービー(ダート1000m)、5月19日のG1ブリークネスS(ダート9.500m)と合せて米三冠を達成したジャスティファイ(牡3歳、父スキャットダディ、B.パファート厩舎)の引退が7月25日に発表されました。ジャスティファイはベルモントS後、左前肢の球節に不安が発生。最大目標とするG1ブリーダーズクラシックを含む秋のレースに間に合わないことから引退が決まりました。

●G1「キングジョージ」～ポエッツワードがG1連勝

イギリスのアスコット競馬場で7月28日に行われたG1キングジョージVI世&クイーンエリザベスS(芝1100m2117m)は、J.ドイル騎手を背に後方でレースを進めたポエッツワード(牡5歳、父ポエッツヴォイス)が、同じM.スタウト厩舎の所属馬クリスタルオーシャンをゴール前で交わして優勝。3着馬を9馬身も離れたマッチレースを制して、6月のG1プリンスオブウェールズS(芝900m2127m)に続くG1連勝としました。スタウト調教師は2010年ハービンジャー以来の「キングジョージ」制覇となり、同レース史上最多の6勝目をあげました。